

第2学年 道徳科学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時

学 級：第2学年〇組（〇名）

場 所：2年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 主題名 考えや立場の違いを尊重し合う【内容項目 B 相互理解、寛容】

2 資料名 「ジコチュウ」（「中学道徳2 きみがいちばんひかるとき」光村図書）

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について(道徳的価値観)

「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 特別の教科 道徳編」では【内容項目 B 相互理解、寛容】について、「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」と示されている。

中学生の時期は、ものの見方や考え方が確立してくるとともに、自分の考えや立場に固執する傾向が強くなるがゆえに、友人間での意見の対立や摩擦が生じることも少なくない。人にはそれぞれ自分のものの見方や考え方があり、個性があることから、互いが相手の存在の独自性を認め、相手の考えや立場を尊重することが大切である。また、寛容の心をもつことで、人を許し受け入れてとがめだてしないで、他者のよい面を積極的に認めることができる。そのため、相互に個性や立場を尊重することが、自分の人生にとってどのような価値をもつのかを理解したうえで、相手や場面が変わっても、寛容の心をもって他者と接しようとする意欲を育て、日々の実践に結び付けられるようにしたい。

(2) 価値に関わる生徒の実態について(生徒観)

本学級の生徒は、これまでの学校生活において、自分の考えや意見を相手に伝えることの大切さを感じるとともに、相手の立場に立ってその考えや意見を聴くことで、真の相互理解が可能になるということを手学してきた。「お互いの考えや意見を認め合うことや、寛容な心をもって他者を認め尊重することが大切である」という道徳的価値についても理解している。しかし、自分の考えに固執し、他者の立場や考えに十分思いを巡らせることができず、すれ違いが生じることもある。また、深く考えずに他者に対して肯定的な態度をとったり、見て見ぬふりをしたりすることは、本当の意味での寛容や相互理解ではないということにまで考えが及ばない生徒もいる。そこで、これからの生き方について、他者が置かれた状況や立場を理解して、相互理解を図るために大切にすべきことを考え、寛容の心をもって他者と接しようとする意欲と態度を育てたい。

(3) 教材について(教材観)

本教材は、家庭の事情で学級の仕事等が十分にできなくなった佐々木に対して、「ジコチュウ」という言葉を発してしまった「僕」が、佐々木の事情を知り、相手を理解しようとしていなかった自分に気付くという内容である。活用にあたっては、登場人物の言動を共感的に捉えながら、それぞれの立場や役割から生じる思いを理解し、「僕」と佐々木の関係に限らず、自分と周囲の人間関係に広げて考えられるようにする。異なる考えや立場の者同士がよりよい関係を作っていくためには、どのような心構えや姿勢が必

要なのか、何を大切にすれば実現可能なのかを考え、相互理解の重要性を理解し、寛容の心をもって他者と接しようとする意欲と態度を育てたい。

4 生徒の成長を促すための評価

(1) 本主題における生徒の学びの姿

この教材の登場人物の姿から、生徒の考える「ジコチュウ」な人にも、もしかしたら語られない事情があるかもしれないと、広い視野から考えようとする姿勢をもてるようにする。また、よりよい人間関係を築くためには、お互いの考えや立場の違いを尊重し合うことに価値があることに気付き、そのために相互理解に努め、他者に対して寛容の心をもって接しようとする姿を目指す。

(2) 学びの姿につながる指導

事前アンケートにより、生徒が考える「ジコチュウ」の人物像を確認し、導入で共有するとともに、そのような人と接する時はどうするか、自分の体験や見聞きしたことから想起する。教材を読み、佐々木に対する「僕」の思いに共感するとともに、「僕」の課題を捉える。道徳的価値に関わる「僕」の課題を挙げる際には、生徒の発言に対して、同意見もしくは反対意見への挙手を促すことで全員が意思を表明する機会を設ける。「僕」と佐々木それぞれの立場に立って考えることで自我関与を図れるようにする。次に、佐々木からの手紙を読んだ「僕」の気持ちを考える。中心発問では、考えや立場の違いを尊重し合うためには、どのようなことが大切なのかを個人で考えて記述し、自由に互いの記述内容を読み合い、全体で考えを交流する。他者の記述内容を読んで新たな気付きがあれば追記したり、他者の考えを交えて発表したりできるようにする。さらに、中心発問で考えたことがどのような意味をもつのかを考え、ねらいに迫る。終末では、本時の学習を振り返って記述し、道徳的価値の理解の深まりを今後につなげられるようにする。生徒一人ひとりがじっくりと自分の考えをもつ時間を確保するため、書く活動は、中心発問に対して考える場面と振り返りの場面の2回設定する。

(3) 生徒の学びの姿についての評価とフィードバック

展開における記述、発言等は学習状況として把握し、それぞれの立場に立って考えたり、他の生徒の考えを受け止めたりしている発言や表情が見られたことを評価し、積極的に認める言葉かけを行う。発問の際には、生徒からの発言に対して、補助発問や問い返しを行うことにより、生徒が考えの根拠や心情を様々な視点から捉えて多面的・多角的に考えようとし、終末にかけて道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めていく姿を見取る。授業中のつぶやきや表情、態度などを観察し、心の動きを捉えた際には指導者のノートに記録する。いずれも評価した時点で個別に言葉かけを行い、意図的指名につなげられるようにする。振り返りの記述、発言からは、これからの生き方について考えられている姿を道徳性に係る成長の様子として把握する。評価の視点に沿って、一人ひとりのよい点や考えを認め、下線の引き分けによって評価を行う。また、学級通信や次時における前時の振り返りを行う時間を活用し、全体へのフィードバックを行う。

5 本時のねらい

クラスメイトの言動を自己中心的だと一方的に判断しながらも、自分自身を振り返っている「僕」について共感的に理解することを通して、考えや立場の違いを尊重し合うことに価値があることに気付かせ、そのために相互理解に努め、他者に対して寛容の心をもって接しようとする実践意欲と態度を育てる。

	学習活動・主な発問	予想される生徒の思い	教師の支援と評価
導入	<p>1. 主題に関して考える。 事前アンケートの結果を確かめる。</p> <p>↑</p> <p>・「ジコチュウ」とはどんな人のことだと思うか。</p> <p>・「ジコチュウ」な人がいたらどうするか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分勝手な考えや行動をしている人。 ・みんなで何かをやる時に決めたことを守らない人。 ・すぐに怒る人。 ・腹が立つ。 ・関わりたくないなので、放っておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果を示し、学習への方向付けを図る。 ・日常生活における自分の体験や見聞きしたことを具体的に出し合い、「ジコチュウ」の人物像を共有する。
展開	<p>学習課題：どうすれば考えや立場の違いを尊重できるのだろうか</p>		
展開	<p>2. 「ジコチュウ」を読んで考える。</p> <p>補 タイトルの「ジコチュウ」とは、この話の中の誰を指すのだろうか。</p> <p>補 佐々木の態度について、どのように感じたか？</p> <p>返 なぜ佐々木はそんな態度をとったのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木(登場人物) ・「僕」 ・不快に感じる。 ・誤解を生むと思う。 ・同情されたくない。 ・家のことで他の人に迷惑をかけたくないし、できていないことを指摘されたくない。 ・弱みを見せたくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」に着目して、「ジコチュウ」の意味を考えながら読むように促す。 ・佐々木の態度は決して好意的に受け止められるものではなく、むしろ誤解を生みやすいものである。しかし、彼女が手紙の中で垣間見せた心情に着目し、「同情されたくない」という思いやプライドの高さがそうさせているということを確認する。また、手紙を書いている時の佐々木の気持ちを想像する。
展開	<p>○「僕」の課題は、どんなことだろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木の話をきちんと聞こうとしていない。 ・勢いで「ジコチュウ」と言っている。 ・班長としての責任を果たすことしか考えられていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木だけに問題があるわけではなく、佐々木を「嫌なやつ」「ジコチュウ」と決めつける「僕」の言動の問題点を押さえる。ただし、班の協力の必要性を訴える班長としての「僕」の考え方が必ずしも間違っているわけではないこと

展	<p>○佐々木からの手紙を読んで、その場に凍りついたようになった「僕」はどんなことを考えたのだろうか。</p> <p>補「僕」の頭の中で渦巻いていた<u>同じ言葉</u>とは、何だろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひどい言葉で佐々木を傷つけてしまった。 <u>後悔</u> ・佐々木のことをもっと考えるべきだった。 <u>反省</u> ・自分も<u>ジコチュウ</u>だった。 <u>謙虚</u> 	<p>も押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発言に対して同意見もしくは反対意見への挙手を促す。全員が意思表示を行えるようにする。 <p>評価（発言）</p> <p>《視点①》道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。</p> <p>・佐々木の事情や心情を理解し、自己を見つめる「僕」の思いに気付けるようにする。</p> <p>評価（発言）</p> <p>《視点④》読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして考えようとしているか。</p>
開	<p>3. 考えを深める。</p> <p>◎考えや立場の違いを尊重し合うためには、どんなことが大切なのだろうか。</p> <p>補考えや立場の違いを尊重し合うことには、どんなよさがあるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一方的に決めつけない。 ・自分の考えを伝え、相手の考えを聴く。 ・人には話せない、話したくないことがあるということを想像する。 ・相手を理解しようと努める。 ・思いやりをもつ。 ・相手の個性を認め、生かそうとすることができる。 ・人間関係がうまくいく。 ・自分のものの見方や考え方が変わったり、広がったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」と佐々木を念頭に置きつつ、<u>学級や部活動、委員会等の様々な場面で考えや立場が異なる人と一緒に活動するうえで、どんなことを心がけるとよいか、今後のあり方について考える。</u> ・記述したページを広げて机の上に置き、読んで回る時間を設ける。印象的だった意見を「印象に残った友だちの考え」の欄に記入するように促す。 ・自分の考えや立場に固執せず、相互理解を図り、寛容の心をもって他者と接することが、自分自身の人間的な成長に役立つということに気付けるようにする。

			<p>評価（記述・発言）</p> <p>《視点⑥》道徳的な問題に対して、自己の取り得る行動を他者と議論する中で道徳的価値の理解を更に深めているか。</p>
終末	<p>4. 本時の学習で学んだこと、気づいたことを振り返る。</p> <p>○この学習を通して、感じたことや考えたことはどんなことか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの考えや立場を理解し、尊重し合うことによって、他の人たちと調和して生活していけることが分かった。 ・人それぞれの個性を認め、相手の立場や状況を考えて、広い視野でものごとを見るのが大事だと思った。 ・考えが合わない人に対して、理解しようとしていない自分がある。寛容の心をもって人と接することは難しいことだが、自分の所属する集団や、自分自身の成長のために必要なことなので、そうできるように心がけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の考えや立場の違いを尊重しようとする主体的な姿勢について考えられるようにする。<u>相互理解を図り、寛容の心をもって他者と接することは、人間関係の調和をもたらしたり、広い視野でものごとを捉えたりすることにつながり、それが自分の生き方にとって価値があるということを理解できるようにする。</u> <p>評価（記述）</p> <p>自己を振り返り、道徳的価値や人間としての生き方についての考えを深められているか。</p>

7 板書計画

